



2024年3月期

(2023年4月1日 ~ 2024年3月31日)

決算補足資料

2024年5月13日

ENOMOTO Co.,Ltd.

東証プライム 証券コード:6928

2024年3月期決算



業績報告（前期比）

- ・ スマートフォン向けのコネクタ部品や民生・産業機器向けのリードフレームの生産調整の長期化により減収
- ・ 生産能力増強に伴う減価償却費や人財の採用などの先行投資により、営業利益は大幅減益
- ・ 売上高は円安の影響もあり従来予想比通りに着地。一方、利益は国内主力の民生機器向けコネクタ用部品の需要と工場稼働率が想定以上に低下したことにより、予想を下回った

単位:百万円	2023/3期		2024/3期		期比較
	実績	売上比(%)	実績	売上比(%)	前期比(%)
売上高	29,265	100.0	25,244	100.0	△13.7
売上総利益	4,100	14.0	2,654	10.5	△35.3
販管費	2,538	8.7	2,494	9.9	△1.8
営業利益	1,561	5.3	160	0.6	△89.7
為替差損益	37	0.1	17	0.1	△54.1
助成金収入	157	0.5	35	0.1	△77.6
経常利益	1,805	6.2	291	1.2	△83.8
当期純利益	1,269	4.3	121	0.5	△90.4
1株当たり純利益	190.02円	-	18.16円	-	
1株当たり配当金	60.0円		70.0円		

製品群別売上高

- ・ パワー半導体用リードフレームは車載向けは堅調だが、民生・産業機器向けの在庫調整が続いた
- ・ オプト用リードフレームは大型ディスプレイ向けなどの低迷
- ・ コネクタ用部品はスマートフォン、ウェアラブル端末向けの調整が長期化、車載向けは回復

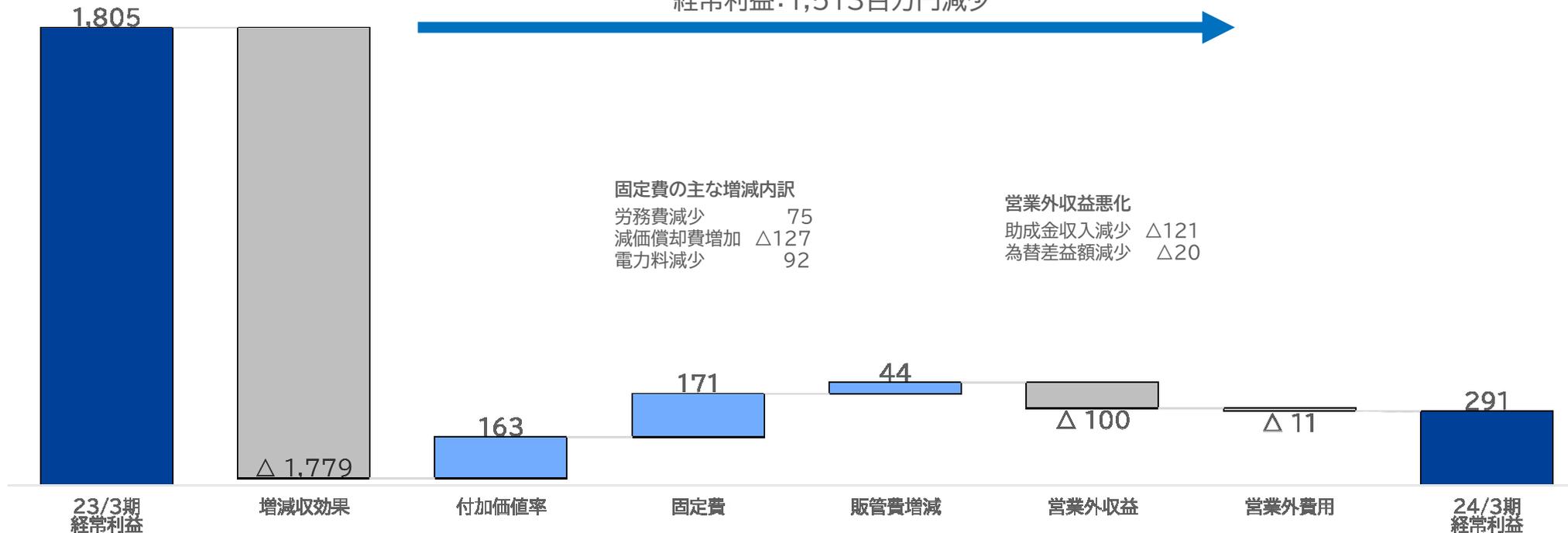
単位:百万円	2022/3期		2023/3期		2024/3期		前期比(%)
	実績	構成比(%)	実績	構成比(%)	実績	構成比(%)	
パワー半導体用 リードフレーム	9,929	36.4	11,973	40.9	11,112	44.0	△7.2
オプト用 リードフレーム	3,686	13.5	3,719	12.7	2,647	10.5	△28.8
コネクタ用部品	12,955	47.5	12,912	44.1	10,989	43.5	△14.9
その他	679	2.5	659	2.3	495	2.0	△25.0
合計	27,250	100.0	29,265	100.0	25,244	100	△13.7

経常利益増減要因(通期)

- 増減収効果 コネクタ用部品とオプト用リードフレームの販売が大幅減少
- 付加価値率 クリップボンディングリードフレームの増加により製品ミックスは改善
- 固定費 ①生産能力増強に伴う減価償却費増加
 ②人件費は稼働率低下により、電力費は再エネ利用増と稼働率低下により減少

(百万円)

経常利益:1,513百万円減少



用途別量産品売上構成比(通期)

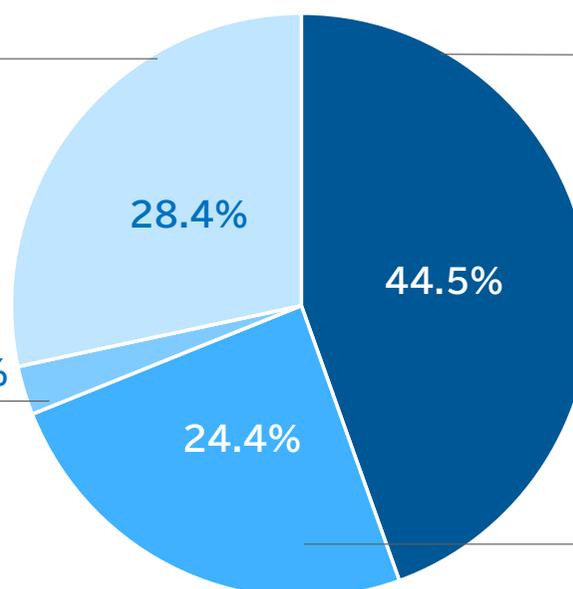
- 車載はパワー半導体用リードフレームが好調、エアバッグ向けコネクタ等も回復基調
- スマートフォンは2023年3月期4Qから底ばいで推移、ウェアラブルの在庫調整は4Qで底打ちしたが、先行きに不透明感
- 民生・産機・その他はデータセンター向け等のパワー半導体用が調整、大型ディスプレイ向けのLEDも低迷

民生・産機・その他

- 構成比は前期の35.1%から 6.7pt減少
前年同期比31.9%減少
- データセンター向け、産機向けの
パワー半導体用リードフレームが在庫調整
- 大型ディスプレイ向けの
LED用リードフレームが減少

ウェアラブル

- 構成比は前期の4.5%から 1.8pt減少
前年同期比49.0%減少
- ワイヤレスイヤホンやウォッチ向けの在庫調整



車載

- 構成比は前期の33.7%から 10.8pt増加
前年同期比11.1%増加
- xEV向けパワー半導体用リードフレームが好調
- エアバッグ向けコネクタ等が回復

スマートフォン

- 構成比は前期の26.7%から 2.3pt減少
前年同期比23.0%減少
- スマートフォン向けコネクタ部品の減少

四半期別業績報告(第4四半期)

- ・ 車載向けのコネクタ用部品は海外工場を中心に比較的堅調、一方で国内工場でのスマートフォン向けコネクタ用部品の調整継続
- ・ 工場稼働率の低下と先行投資に伴う固定費率上昇により、利益は大幅な減益

単位:百万円	2023/3期					2024/3期						
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	4Q 前同比 (%)	3Q比 (%)
売上高	7,243	7,406	8,040	6,574	29,265	6,426	6,593	6,169	6,053	25,244	△7.9	△1.9
売上総利益	1,155	1,017	1,231	695	4,100	722	642	730	558	2,654	△19.7	△23.5
販管費	619	615	655	648	2,538	590	637	626	639	2,494	△1.5	+2.0
営業利益	536	401	575	46	1,561	132	4	103	△80	160	-	-
為替差損益	84	53	△80	△20	37	12	16	△41	29	17	-	-
経常利益	638	489	516	161	1,805	162	27	89	12	291	△92.1	△85.6
四半期純利益	431	346	433	57	1,269	96	△9	29	3	121	△93.1	△86.7

製品群別四半期売上高(第4四半期)

- ・ パワー半導体用リードフレームは、車載向けが堅調に推移したが、民生・産機向けは在庫調整局面
- ・ オプト用リードフレームは、大型ディスプレイ向けが低迷し、底ばい
- ・ コネクタ用部品は車載向けが堅調に推移した一方で、スマートフォン向けの調整が想定以上

単位:百万円	2023/3期					2024/3期						
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	4Q 前同比 (%)	3Q比 (%)
パワー半導体用 リードフレーム	2,684	2,797	3,377	3,113	11,973	3,164	2,832	2,516	2,598	11,112	△16.5	+3.3
オプト用 リードフレーム	1,008	931	854	925	3,719	712	662	648	624	2,647	△32.5	△3.6
コネクタ用部品	3,408	3,496	3,627	2,379	12,912	2,437	2,970	2,863	2,717	10,989	+14.2	△5.1
その他	143	180	180	155	659	112	129	141	112	495	△28.1	△20.7
合計	7,243	7,406	8,040	6,574	29,265	6,426	6,593	6,169	6,053	25,244	△7.9	△1.9

2025年3月期業績予想



業績予想

- ・ オプト用リードフレームは大型受注案件の順次量産開始により国内生産拠点の稼働率向上、利益率改善
- ・ メッキや樹脂成形が必要な高付加価値製品をターゲットに受注活動強化、製造工程の自動化推進を加速

単位:百万円	2023/3期		2024/3期		2025/3期		期比較
	実績	売上比(%)	実績	売上比(%)	予想	売上比(%)	前期比(%)
売上高	29,265	100.0	25,244	100.0	25,500	100.0	+1.0
売上総利益	4,100	14.0	2,654	10.5	3,150	12.4	+18.7
販管費	2,538	8.7	2,494	9.9	2,550	10.0	+2.2
営業利益	1,561	5.3	160	0.6	600	2.4	+274.4
経常利益	1,805	6.2	291	1.2	600	2.4	+105.5
当期純利益	1,269	4.3	121	0.5	450	1.8	+271.0
1株当たり当期純利益	190.02円	-	18.16円	-	67.38円	-	-
配当金	60.0円	-	70.0円	-	71.0円	-	-

製品群別売上高予想

- ・ パワー半導体向けリードフレームは足下は中国向けの民生・産機用が調整継続、期後半からの底打ちを見込む
- ・ オプト用リードフレームは大型受注品が順次量産・出荷開始
- ・ コネクタ用部品は、スマートフォンとウェアラブルの新機種向けが上期から出荷開始、下期は新機種の販売動向次第一方で、車載向けは堅調な推移を見込む

単位:百万円	2023/3期		2024/3期		2025/3期		前期比(%)
	実績	構成比(%)	実績	構成比(%)	予想	構成比(%)	
パワー半導体用 リードフレーム	11,973	40.9	11,112	44.0	10,500	41.2	△5.5
オプト用 リードフレーム	3,719	12.7	2,647	10.5	3,500	13.7	+32.2
コネクタ用部品	12,912	44.1	10,989	43.5	11,000	43.1	+0.1
その他	659	2.3	495	2.0	500	2.0	+1.0
合計	29,265	100.0	25,244	100	25,500	100.0	+1.0

中期経営計画『ビジョン2030 2nd STEP』
(2025年3月期～2027年3月期) (抜粋)





ビジョン2030

「金型の技術で未来を創る」

より小さく より速く 最先端の技術で 暮らしとビジネスのベストパートナーを目指す

——— ありたい姿 ———

技術

- AI化と無人化による金型技術の進化で常に最先端の市場に向けて高品質な部品をスピーディーに提供し続ける

人材

- 失敗を恐れずチャレンジし多様な人財が活躍できる職場環境づくりを通じてイノベーションを生み新たな企業価値を創造する

環境

- 燃料電池部品の実用化で脱炭素社会の実現に貢献する
- 社会環境におけるリスクと機会を的確にとらえて行動することで信頼される企業であり続ける

中長期成長目標

- ビジョン2030では、既存製品の需要拡大を見据えつつ、付加価値率の向上を軸とした各種施策で主力製品のマーケット成長を上回る利益成長を図る
- 2nd STEPでは、車載向けリードフレームの生産拡大、ハイエンドLEDの強化、メッキ内製化による付加価値向上を実現する
- 生産面では、精密加工の無人化、スマートファクトリー実現に向け、データの共有化やビッグデータの構築と見える化を推進する



中期経営計画『ビジョン2030 1st STEP』の業績目標の振り返り

- 1st STEPの数値目標は、津軽工場増築によるコネクタ用部品の増収や国内海外のパワー半導体メーカーへのリードフレーム販売強化から2022年5月に売上高を250億円から290億円、営業利益を20億円から24億円に上方修正
- しかしながら、2023年3月期第4四半期から続く民生用機器向けの在庫調整やエネルギー価格上昇などから、目標は未達

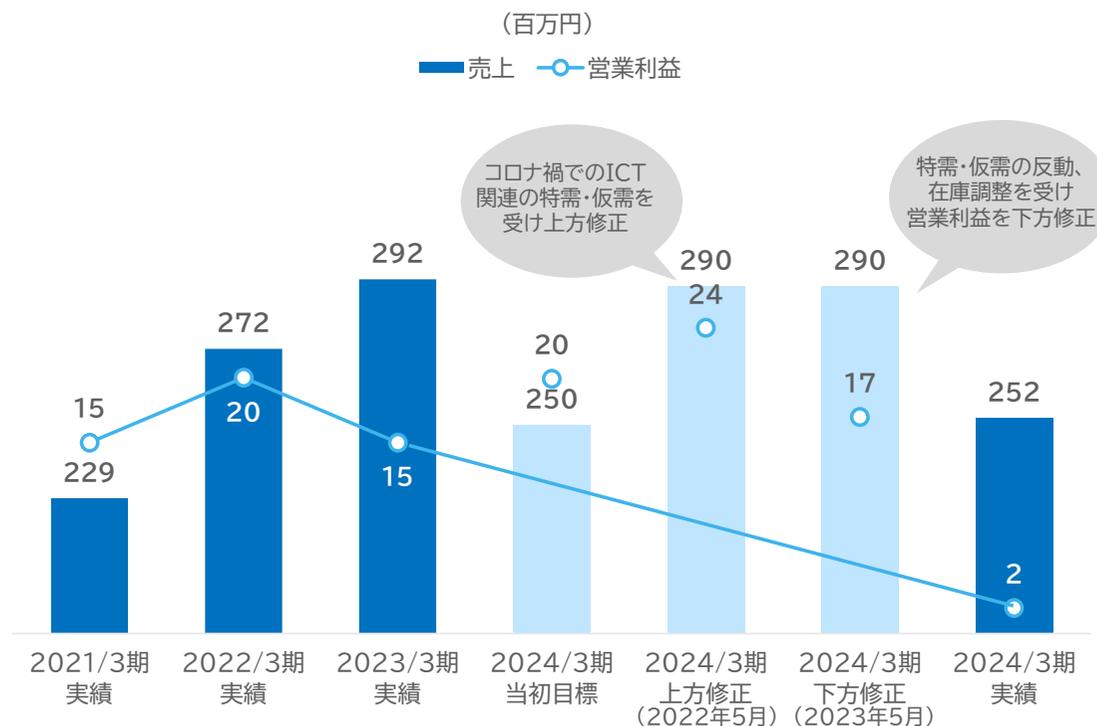
1st STEP 当初目標数値



1st STEP 実績



1st STEP業績推移



戦略と成果			
戦略	成果		
成長分野への投資と 収益力強化	情報通信分野向けコネクタ部品の増強(津軽工場拡張)	BtoBのシェアアップ及びウェアラブル向けの成長を見込んだが達成には至らず	×
	xEV・自動運転分野(パワー半導体・センサー)への注力	車載向けパワー半導体の需要が増加、クリップボンディングリードフレームで先行	○
	パワー半導体パッケージ部品の生産能力増強	2nd STEPで計画していた増強を1st STEPで前倒して実施、新たな顧客を獲得し物量も増加	○
	メッキ内製化による一貫生産体制強化	国内は遅れが出ているが、海外はライン数を増設し内製化に向けてサンプル評価中	△
金型技術の進化= 職人技の発掘と伝承×自動化	経験知を可視化する仕組み作り 職人技のデジタル化(映像化・画像化)	図、写真、動画をい用いメカニズム、ノウハウ、作業手順、教育資料を社内サイトへ積上中	△
スマートファクトリーによる 経営資源の最適化	ものづくりの見える化 IoTと自動搬送等の再整備	新ERP導入などにより、業務処理は省力化出来たが見える化の実現には至らず	△

『1st STEPで実施した成長投資を確実に刈り取る』

2nd STEPの重点課題

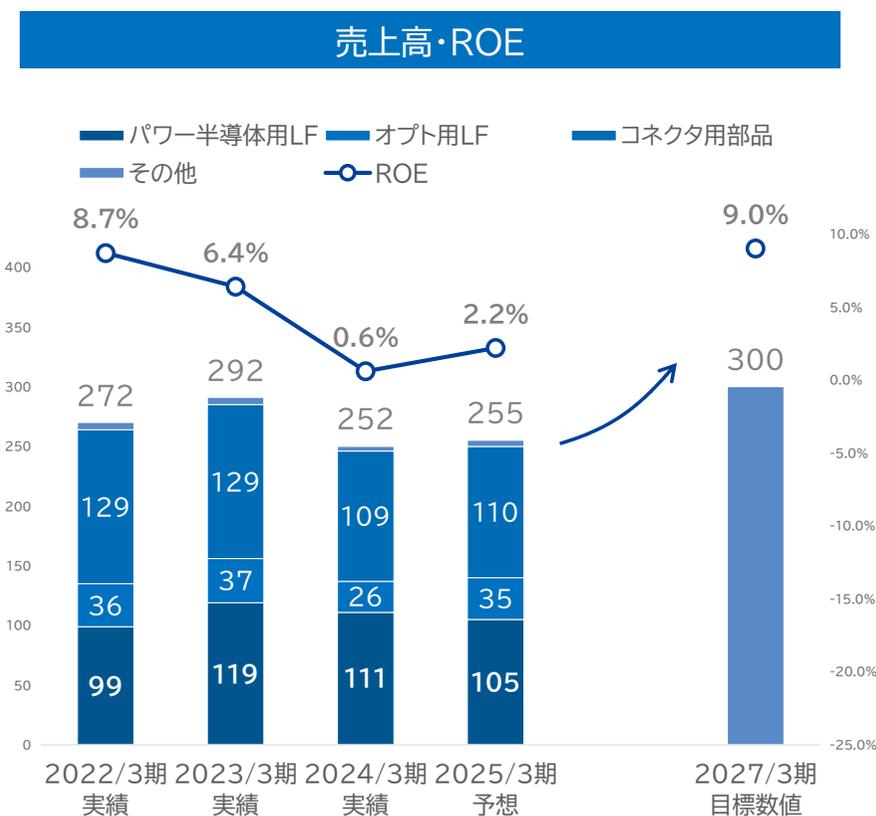
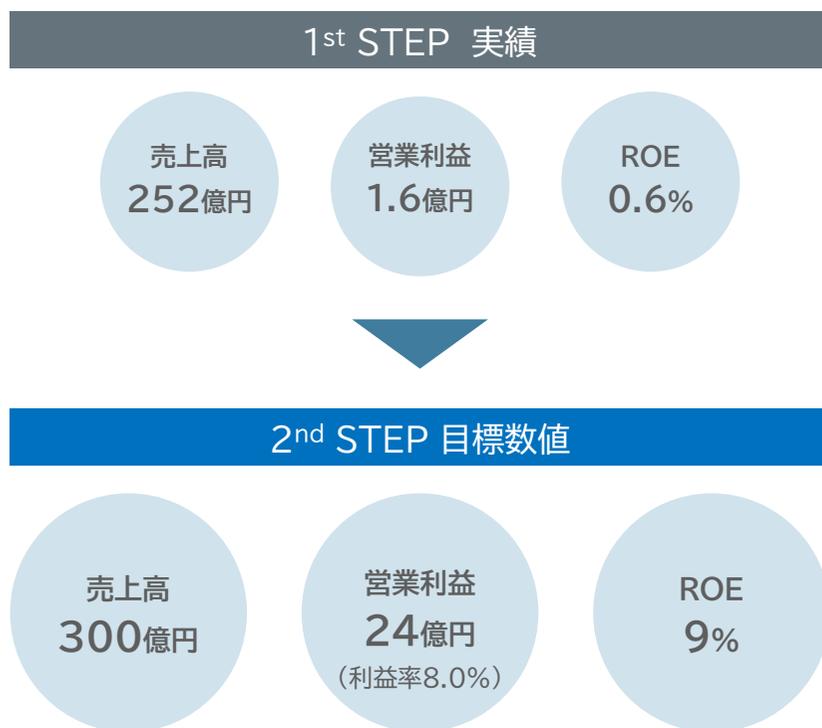
津軽工場のキャパアップ効果

メッキ内製化による利益率改善

見える化、スマートファクトリーの推進

2nd STEP(2025年3月期～2027年3月期)

- 自動車向けパワー半導体用リードフレームやハイエンドLED等の成長分野への投資により、2nd STEP最終年度は売上高300億円を計画
- 増収に加えて、メッキ工程の内製化やスマートファクトリーの推進による生産効率向上により営業利益は24億円、利益率も8.0%を計画

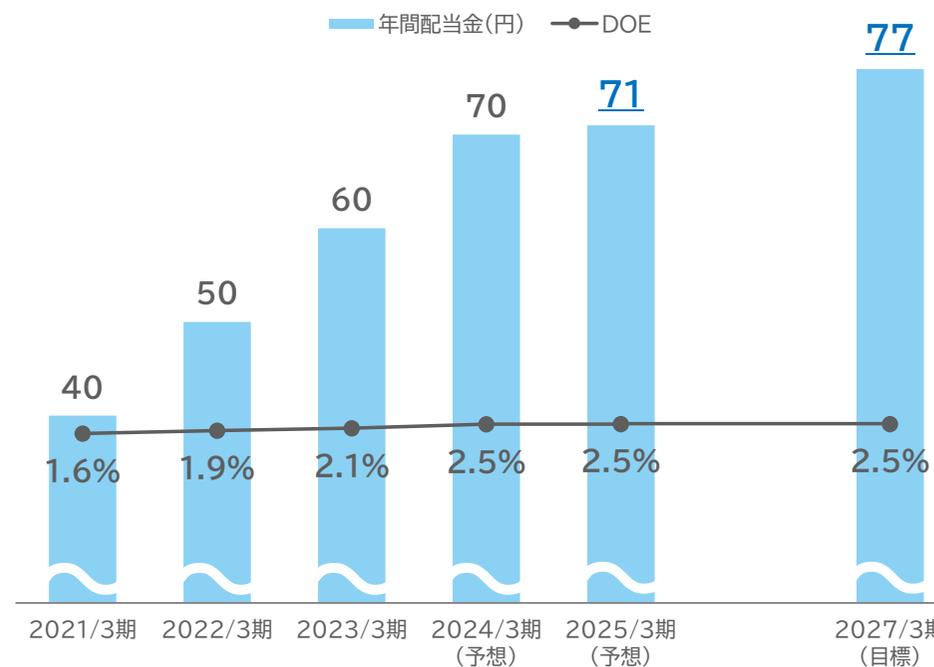


- 2023年5月に配当方針をDOEをベースに変更、2024年3月期は期初予想通り70円配当を予定、同様の方針により25/3期も71円への増配を計画

2024年3月期以降の配当方針

- DOE*2.5%以上を配当の数値基準とする
- 次期中期経営計画「2nd STEP」でも、最適な自己資本水準や短期的な利益増加の反映方法を総合的に勘案しつつ、増配トレンドを継続する
- 2024年3月期は70円配当を予定（DOE2.5%）
2025年3月期も同様の方針で71円の配当予想

配当金・配当性向の推移



* DOE(自己資本配当率) = 年間配当額 / 株主資本

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。